

○体育科の課題分析と具体的な授業改善計画（令和二年度授業改善プラン 入新井第一小学校）

*令和元年度の改善プランの検証

子ども同士や教師と子どもで教え合い、学び合う中で、技能の習得が進むことが分かった。運動ができることで楽しさを感じることができる児童が増えている。一方で、できることやゲームや試合の勝ち負けに重きをおく児童がいる。できることや勝ち負けに偏重するのではなく、運動の特性にふれ、体をおもいきり動かし体育の学習の楽しさに触れさせる学習活動をさらに進めたい。自分に必要な練習や課題、目標を立て、取り組むことで、よりよい活動ができると考えるため、めあてを意識した授業を行っていく。また、自己の課題を確認するため、ICT機器の利活用を目指す。

*令和二年度の改善プラン

観点	児童の実態	明らかになった課題	具体的な授業改善案	
体育	一年済	<ul style="list-style-type: none"> 運動経験の差が大きく、体の動かし方の習得に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> マット運動やボール投げ、固定遊具などは未経験または経験が浅い児童が多く、思い通りに体を動かさずに技能を習得できない様子が見られる。 走り方や投げ方の動きがぎこちなく、理解しているように動けない様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の導入の場面では、主運動に繋がる運動遊びを取り入れ、多様な動きを知ったり、それに慣れたりできるようにする。 手や肘、膝などの部位に着目した声掛けをし、遊びの中で自分の体の動かし方を試す活動時間を十分にとる。
	二年済	<ul style="list-style-type: none"> 運動の技能に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 慣れない運動遊びでは体の使い方がぎこちない。 運動経験や動きに対する理解力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 鬼遊びや鉄棒を使った運動遊びなど、児童が日常的に取り組めるような運動遊びの他、リズム遊びや表現遊びを意識して取り入れ、基本的且つ多様な動きを身に付けられるようにする。 単元を通して身に付ける技能を明確にして活動に取り組みさせる。
	三年済	<ul style="list-style-type: none"> 運動が好きな児童が多い。 運動技能に偏りや個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> どの運動種目もバランスよくできる児童が少ない。 基本的な体の動かし方を知らない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 協力し合い、互いに評価し合うことで技能を高めていく。 運動量を確保できるように組み立てる。 基本的な体の動かし方を教師が示範したり、動きのいい児童を手本で見せたりして、真似をさせる。
	四年済	<ul style="list-style-type: none"> 単元によって、運動の技能や体力の状況の個人差が大きい。 感染症対策や、校舎改築による校庭使用頻度の減少等による運動量低下で、筋瞬発力、筋持久力ともに二極化が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な動きや技能を身に付けていない児童がいるため、各種の運動の楽しさや喜びに触れることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさを伝えるとともに、各運動の技能面を向上させるために、年間指導計画及び、各単元の計画を工夫していく。 体力の二極化に対応できる個別方法の在り方を充実させていく。
	五年済	<ul style="list-style-type: none"> 日ごろから運動に親しんでいる児童と、運動に消極的な児童の二極化が見られる。その結果、できる児童はどの運動も得意で、できない児童はどの運動も苦手というような運動の技能にも二極化が見られる。 感染症対策で水泳を実施しなかったことで、泳力に心配が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業が運動習慣を身に付けさせ、運動技能を向上させるための要だと教員が認識し、運動量を確保しながら、各種の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けさせるようにする。 水泳に関しては来年度、計画的に実施し、個に応じた目標をきちんと設定する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わわせるためにも、基本的な技能を身に付けられるように、単元計画の前半で技能のポイントを絞った指導を行うようにする。 水泳の学習時間の確保。個に応じた目標に沿って個別指導を充実させる。
	六年済	<ul style="list-style-type: none"> ボールを扱う学習や水泳など習い事をやっている児童とそうでない児童との差が激しい。 筋力が少なく、体をうまく支えられず技が失敗してしまう。 心の健康やけがの防止、病気の予防について理解しているが、実生活のなかで実行できている児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めから苦手、できないと思ってしまう児童がいる。 各種の運動の基本となる動きが身に付いていない。 保健領域の内容を不安や悩みへの対処の方法やけがなどの簡単な手当てを実践できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能を身に付けさせ、それをプレイ等の中で発揮させることで、喜びを味わわせる。 各種の運動の基本となる技能をそれぞれの運動の特性に応じて身に付けさせられるように指導する。 不安や悩みへの対処の方法やけがなどの簡単な手当てを実践する体験をさせる。
	一年済	<ul style="list-style-type: none"> 走り方やボールの投げ方、マット遊びなどについて、めあてを意識して取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験の差が大きく表れ、前回りやボール投げの経験が少ない児童は、コツやポイントの理解が不十分なことがある。 活動を楽しむあまり、めあてを意識できていない児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、ペアやグループで運動を見合う活動を取り入れ、友達のよい動きに関心をもたせる。また、見本となる動きを見せ、その動きを真似してコツをつかませる。
	二年済	<ul style="list-style-type: none"> めあてに向かって課題に取り組もうとしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力の個人差がある。ボール運動など日常の活動が少ない児童は、動きが小さく不十分である。 活動の楽しさに没頭し、めあてを意識できていない児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードや友達の動きを通して、動きのポイントを具体的に提示するようにする。 振り返りを通して、楽しく運動をするきまりについて考える時間を設ける。 めあてを明確に示したり、活動の途中に振り返る時間を設けることで、全員が意識して活動できるようにする。

思考力、判断力、表現力等	三年済	<ul style="list-style-type: none"> 技能を高めようとする様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてをもつことはできるが、自分の課題に気づき、それを意識しながら活動できていない。 自分の課題がどこにあるのかという意識は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題に気付けるように、技をスモールステップで段階的に習得できるように、取り組み方を提示する。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 器械運動をはじめ、技のポイントを理解しないまま学習に取り組んでいるとみられる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの技のポイント、動きのポイントを意識して運動しようとする意識を持つことが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを单元ごとに作成し、それぞれの技のポイントを知るカードを作成する。 毎回の授業で、友達同士の学び合いができる時間を設定する。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合いをする際に特定の児童ばかりが話をする場面が見られる。 友達の運動の様子を見て、自分の動きにも取り入れようとする児童がいる。 技ができてても技能のメカニズムの説明ができる児童は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの運動の課題を見付けられるように支援をする。 体のどの部分がどのように、どんな順番で動いているかまで、動作を分解し理解できている児童が少ないため、なかなか言葉にならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が課題解決を図れるように、個人カードやグループカードを活用し、毎時間の授業ごとに教員が課題を把握する。 手本や発表をする児童の動きを事前にタブレットに撮影しておくなど、スローモーションして見ながら説明できるようにする。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合いをする際に特定の児童ばかりが話をする場面が見られる。 友達の運動の様子を見て、自分の動きにも取り入れようとする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> なぜできないのか、という課題を見付けられない。 課題を見付けても、解決方法を工夫できない。 解決方法を他者に伝えることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が課題を見付けられるように、ICTを活用して、自分の動きを見られるようにする。 すでに課題を解決している児童の動きを見せ、解決方法を考えさせる機会を与える。 解決方法を他者に伝える機会をを設
学びに向かう力、人間性等	一年済	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きで、元気いっばいに運動遊びをしている。特にボール遊びや鬼遊びは、休み時間も意欲的に取り組んでいる。 友達と仲良く遊んだり、協力して準備や片付けをする姿勢が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 走る際に障害物がなくても転ぶことがよくある。 集団行動として、自分の並ぶ場所などが分からなくなる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全指導を徹底して行い、動き始めの安全確認を意識させる 様々な並び方を折に触れて組み込み、体験的に覚えられるようにする。
	二年済	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きで、授業に意欲的に取り組む児童が多い。運動に苦手意識はある児童も、進んで取り組もうとする姿勢が見られる。 チームで行う運動では、なかなか話し合いがまとまらず、協力して行えないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きで得意な活動には積極的に取り組むが、苦手な活動に消極的になりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動によって身に付けたい力やめあてを明確にし、進んで活動できるようにする。 授業の流れを明確にし、見通しをもって行うことで、児童の意欲を高めていく。 音楽を積極的に取り入れ、補助運動の際、楽しみながら活動できる場面をたくさん設定していく。
	三年済	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きで、進んで運動に取り組む。協力して取り組む児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手意識の高い児童が積極的に取り組むことが難しい。 自分の技能を高めようとする態度が低い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主運動につながる運動に、誰でも楽しめるような要素を含んだものを取り入れ、できる喜びを味わわせることで、積極的な取り組みにつなげていく。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 体育が好きな児童が多く、各種の運動の楽しさや喜びに触れ、運動に進んで取り組んでいる。 ボール運動において、勝負の勝敗にこだわる面が強い児童が比較的が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 個の意欲は高いが、集団的活動になると、友達同士の教え合い、学び合いが難しい時があるのが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達同士の教え合い、学び合いの場を多く設ける。 勝負にこだわるだけでなく、相手のプレイを認め合う場も設定していく。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 得意な領域には意欲的に取り組むが、苦手な領域(水泳など)には参加しない児童の姿も見られる。 一度やってできないと、どれだけ努力しても自分にはできるようにならない、闇雲に努力してまでできるようにならなくていいと、すぐにあきらめてしまう児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手な領域にも、積極的に取り組むことができるような手だてを教員が考える。 技能の動作を分解して解説し、何をどのように練習すると、何ができるようになるかをより具体化する必要がある。努力すること、反復して練習する効果的な手段を明確化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを児童に味わわせるために、運動前にオリエンテーションを行い、各種の運動の行い方を理解させる。 できない児童ができるようになるために、スモールステップで取り組ませる。 映像、模範演技を活用しながら、技能の動作についてきちんとメカニズムを開説する。けっして精神論だけで指導しない。

		六年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わい、体育の学びに対して意欲的に取り組む児童の姿が見られる。 ・全員で場の準備・片付けを素早く行う習慣が身についている。 ・体育座りや服装などの授業態度もよく身に付いている。 ・ゲームや技に挑戦している時、友達に対して進んで声をかけ、明るい雰囲気です学習に参加できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームなどで負けそうになると、感情的になってしまう児童もいる。 ・短距離走や長距離走などの体格が記録に大きく影響する学習は総じて意欲が出ていく、練習にも身が入らない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動をする際の良好な人間関係運動の楽しさや喜びに大きな影響を与えることを伝える。 ・健康、安全の大切さを認識させ、自己の心身の健康の保持増進や疾病やけがなどからの回復、危険の回避等に主体的に取り組むように声を掛ける。
保健	知識及び技能	五年	<ul style="list-style-type: none"> ・けがを防止するためにどうすればよいかを考えられず、廊下や教室を走り回るなど、安全に留意する習慣が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や身の回りで起こるけがを防止するために、実際にどんなことが必要かという所まで考えられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることなどが必要であることを理解できるように指導する。
			<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活にそくしたことで、どの児童も意欲的に学習に参加できている。 ・発言も活発である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか普段の生活に活用されない。(けがの防止・病気の防止)など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健の学習だけでなく、日ごろから声をかけて継続的に指導していくことが大切である。
思考力、判断力、表現力等		五年	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体の発達については、発達の年齢的に自分の内面を素直に表現しにくいことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を教えこみがちになったりするので一人一人にその解決のための方法や活動を工夫できるように取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自身のことだと、学習を身近に感じさせるような授業展開、そのための教材研究が必須である。
		六年			
学びに向かう力、人間性等		五年	<ul style="list-style-type: none"> ・保健の学習内容をどこか他人事のようにとらえ、自分自身のこととして考えて学習に参加できている児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活におけるけがの原因や防止について、それぞれの具体的な場面について意見を見つけることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの危険や予測される事故を理解し、問題点と解決方法を考えられるような教材や場面設定を用意していく。
		六年			